

蕎麦の史跡探訪

江戸ソバリエ 11 期 成田久則

1. 蕎麦の史跡

蕎麦にまつわる逸話や史跡は、蕎麦切り発祥の地を初めとして、いくつかあるようですが、身近な東京にもあることを、麺類業団体のホームページで知り、訪ねることにしました。

表 1 蕎麦の史跡一覧

沢蔵司稲荷*1	文京区	伝通院近く	沢蔵司が通ったとされる蕎麦店は、現在もある
一休橋	文京区	江戸川公園	一休名残蕎麦
石臼塚	中野区	宝仙寺	製粉業者のメッカ
そば禁制の石碑	世田谷区	称往院	「庵」のルーツとして名高い道光庵があった寺
柴又蕎麦地藏	葛飾区	医王寺	蕎麦のせいろを前に置いた地藏様
麺類杜氏職の墓	台東区	長明寺	蕎麦打ちの渡り職人を供養。田中家の墓地内
蕎麦喰地藏尊	練馬区	九品院	延命蕎麦喰地藏尊奉安所

*1 沢蔵司稲荷(たくぞうすいなり)、蕎麦店は「稲荷蕎麦萬盛総本店」

3 年前に第 1 回目を、今回は第 2 回目(表 1 の太字)で江戸ソバリエの仲間 9 名で訪ねました。

2. 探訪記録

当日(4 月 23 日)はあいにくの雨でしたが、週末のみ営業の蕎麦屋を予約していたこともあり、決行しました。

① 柴又蕎麦地藏

北総線 新柴又駅から 1 分程の医王寺内にあります。

堂々たる山門を一礼してくぐり、本堂に歩みを進めると、その横に蕎麦のせいろを前に我らを見守るがごとく肅然とお立ちです。

「そばの散歩道」(参考)によると『この御地藏様は、中興聖人源珍僧都(げんちんそうづ)というお方で、高野山大火の復興勸進全国行脚の途中病に倒れましたが、村人より頂いた一体の恵比寿天像と蕎麦粉を携えて山中にこもり、万願の日に谷間に下りて蕎麦練りをつくらうとしたとき、水底を見ると金色に光る物を発見しました。

蕎麦粉に砂金がついており、大いに驚き病も癒えて再び行脚をはじめました。「蕎麦を食するものは命長く、脚気に病める者癒え、商人においては恵比須天を祀り、蕎麦を供えて礼拝すれば商売繁昌に成る」と説き、「みそかに蕎麦を食し、かけとりに行かば金銭意の如く集まる」と唱え、多くの人を救ったといえます。

その偉業を尊び、昭和十一年に地藏尊として境内に安置したとのことです。』

江戸時代に「江戸わずらい」今で言う脚気に上流階級を中心に、やがて江戸では庶民も多くかかりました。そして蕎麦を食べると江戸煩いにかかりにくいという噂から江戸ではうどんよりも蕎麦が主流となりました。源珍僧都さん、蕎麦にはビタミン B1 が豊富に含まれていることを知っていたんですね(笑)。





《ちょっと立ち寄り》

「医王寺」から徒歩で柴又方面へ、寅さん記念館隣の「山本亭」に立ち寄り日本庭園ランキング3位(2021年度)の名庭を鑑賞。



《昼蕎麦》

柴又帝釈天近くの「日曜庵」で蕎麦三昧。当店自家仕込の熟成蕎麦はもちろん、超濃厚豆腐「なごり雪」、超濃厚蕎麦湯、蕎麦がきなど店主渾身の逸品を堪能しました。



普通そば粉 田舎 粗挽き 焙煎 その他そばがき用



② 麺類杜氏職の墓

山手線 日暮里駅から5分程度の谷中銀座に隣接する長明寺内にあります。



「そばの散歩道」(参考)によると『「杜氏」といえば、本来「さかとうじ」のことを言いますが、江戸期になると麺類の注文も受けていた一流どころの「菓子司」が、江戸城や大名屋敷に出入りする際に、蕎麦職人のことを特に「麺類杜氏職」と呼んでいました。

その後、「杜氏宿」と呼ばれる「麺類職人請負業」が生まれ、幕末のころには、「美男」「尾張屋」「大芝」などの屋号を持つ口入れ屋が約三十軒、明治、大正期でも十数軒ほどが存在していたといえます。この宿に待機する蕎麦打ち職人は「寄子(よりこ)」と呼ばれ、腕自慢が多かったが、自負心が強く、店を次々と渡り歩き、身を持ち崩して哀れな最後をとげた者もありました。そこで、杜氏宿の一つである「美男」の初代田中徳三郎が、そうした職人たちの供養のために谷中で法要を営み

ました。』

同じようなものに、身よりのない遊女がいます。寺に投げ込まれ、寺では無縁仏として葬りました。吉原遊郭の近くや各地の宿場の寺院に墓や供養塔があります。「麺類杜氏職の墓」は個人で建てたのが特筆で、徳の深さに頭が下がります。

③ 蕎麦喰地蔵尊

西武豊島線 豊島園駅から約5分、田島山十一ヶ寺内の九品院(くほんいん)にあります。

以前は、院の入口のところにあり路傍のお地蔵さんという感じでしたが、今は立派なお堂が建てられ、その中に安置されていました。

蕎麦食地蔵(延命蕎麦喰地蔵)のお話があります。

説明板によると『「毎夜遅く蕎麦を食べに来るお坊さんがいましたが、不思議に思っ
て、蕎麦屋のあるじが跡をつけてみると、地蔵堂の中ですっと消えました。その
夜、枕元に地蔵のお告げがあり、毎日の蕎麦のお礼と、一家の安全を約束されまし
た。以来、あるじは毎日地蔵様に蕎麦を供えたので、江戸中に悪疫が流行した折り
も、一家は難を免れることが出来ました』



九品院がある「田島山十一ヶ寺」は元は浅草にあった田島山誓願寺の塔頭1ヶ寺が関東大震災の後、現在地へ移転したものです。「表1 蕎麦の史跡一覧」の「そば禁制の石碑」がある称往院も関東大震災後に浅草から現在地の烏山寺町に移転しました。



(余談)蕎麦を食べながら談笑している二人の翁。床下には、こんなものが。



寺院で作られていた「僧坊酒」、ブツダの言葉「不飲酒戒」、悩むかそれとも…。



《♫の蕎麦前&蕎麦》

タイムスリップの世界から、現実の時間に戻って、これがなければ今日は終わりません。西武池袋線 練馬駅 南口から徒歩12分、『そば 法師人 (ほうしと)』へ。



左の「爛ガエル」は熟成にごり酒で爛に良しが触れ込み。このような居酒屋では飲めないお酒があるのが蕎麦屋の魅力です。

3. あとがき

先人達の思いに触れて、蕎麦人生の楽しさも味わった一日でした。

今日訪れた蕎麦屋は、いずれも週末(金土日)のみの営業で、史跡にも近く効率よく回れました。

以上

【参考】そばの散歩道「そばの史跡探訪」日本麺類業団体連合会(引用及び一部編集)